

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年9月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2872600354		
法人名	特定医療法人 順心会		
事業所名	グループホーム しらゆりの家		
所在地	加西市北条町東高室四つ池1231-1 (電話)0790-43-9804		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年7月8日	評価確定日	平成20年11月21日

【情報提供票より】 20年 6月 10日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 2人, 非常勤 5人, 常勤換算	5.32人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,300 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要 (6月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5	要介護2	3		
要介護3		要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 89.4 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立加西病院、窪田歯科診療所
---------	----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

老人保健施設と併設の施設である。立地条件的に住宅街から離れた地域であり地域交流は難しいが、地域の運営推進会議を通して紹介された老人会での活動や小学校の運動会・高校生との交流の行事にも参加し、積極的な交流に取り組んでいる。『待つ介護』を介護の基本としており、職員は笑顔で対応し、利用者の言葉を大事にしながら、利用者本位の日課を過せるよう努力している。日帰りの遠出や夜間の外出も企画し、より家庭の環境に近い生活が過せる支援が行われている。また、日々の生活の中で利用者一人ひとりの生活暦を活かし個々の力が発揮できそうな場面作りを行い、能力が発揮出来るよう支援している。年間の職員研修計画を立案し、職員のレベルアップが出来るよう取り組んでいる

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 職員で意見を出し合い、地域密着型ホームの役割を新しく理念に盛り込み、地域密着を強く意識している。地域との交流を大切に考えており、幼稚園との交流のためのホーム目の受け入れなど新しい取り組みを行なっている。運営推進会議も定着し、研修の年間計画も立案し職員教育にも努力している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価表はスタッフ会議で意見を求め、管理者を中心として作成している。評価の意義や目的も説明は行っているが、周知するまでには至っていない。評価の結果についてはスタッフ会議で報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 市職員も参加して、2ヶ月に一回会議を開催している。現場のスタッフの参加の必要性も感じている。参加者に直接現場をみて理解してもらおう機会を作るなど、現状を共有する努力をしている。家族の出席者が固定化しつつあるので他の家族にも参加してもらおうよう努めている。内容は第三者評価の結果報告や運営状況の報告・災害対応・地域と一緒に虐待の勉強会をするなど豊富である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ホーム便り『ホワイトリリー』を発行、利用者の日常の様子や状況を家族に郵送している。面会や意見箱、行事時に家族から要望、意見等を聞き、記録して速やかに対応できるよう体制を整えている。クレームが発生した時には施設の運営会議に報告し、意見を仰ぐように対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 老人会での活動や小学校運動会・高校生との交流の行事にも参加している。今年度は幼稚園をホームに招いたり、トライアルウィークの受け入れも行い、地域との交流機会は徐々に増えている。昨年は夜の外出行事(五百羅漢千灯祭)にも参加し、地域との連携も深まりつつある。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した理念の内容となるよう理念を見直し、ホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに掲示し、唱和することで理念を意識するよう取り組んでいる。理念を基に職員個々の目標を定めて自己評価を実施し、理念を生かしたケアの実践ができるよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域や家族等にも理念を理解してもらうため、ホーム便り『ホワイトリリー』にも掲載予定である。運営推進会議を通して紹介された老人会での活動や小学校の運動会・高校生との交流の行事にも参加している。今年度は幼稚園をホームに招いたり、トライアルウィークの受け入れも行い、地域との交流機会は徐々に増えている。地域で歌を披露するための計画も進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議で自己評価表の項目に関しては職員の意見を聴取し、管理者を中心として作成している。評価の結果についてはスタッフ会議で報告している。評価の意義や目的の説明は行っているが、周知するまでには至っていない。		今後はスタッフに評価の意義への十分理解が深まるよう、評価表作成自体に携わることや、反省会に参加して積極的な改善策の検討するなど、質の向上に向けての更なる工夫が期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・地域代表の住民（区長会長・老人会会長、副会長・民生委員会長、副会長・会計）市職員（包括センター職員）参加のもと2ヶ月に一回運営推進会議を開催している。現場のスタッフの参加の必要性も感じており、ホーム内で開催するよう改善している。家族の出席者が固定化しつつあるので他の家族にも参加してもらうよう努めている。内容は第三者評価の結果報告や運営状況の報告・災害対応・地域と一緒に虐待の勉強会をするなど豊富である。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内で運営推進会議を行うことで参加している市職員にホームを実際に見てもらい実態を共有し、課題解決に向けた協力が得られる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便り『ホワイトリリー』を発行し、担当職員が利用者の日常の様子や状況を月1回まとめを記載し家族へ郵送で報告するほか、面会時にも職員から声をかけ、近況の報告を行ったり、行事のビデオを見てもらい家族に対し積極的な報告を行っている。また、緊急時には電話で連絡をするなど個々の家族の状況や利用者の状況に合わせた細やかな対応を心掛けている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望、意見等は記録し、速やかに対応できるよう体制を整えている。クレームが発生した時には施設の運営会議に報告する体制が整っている。あったか介護相談員の導入もしており、報告会議も開いている。家族会は交流会のような形での開催であるが、少数ではあるが家族からの本音の意見が聞けるようになってきた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの都合での移動は極力おこなわないよう配慮している。退職や移動がある場合はホーム便りで前もって家族には報告しており、馴染みの職員が離職する場合も家族に直接説明し理解してもらうなどダメージを軽減するよう努めている。利用者にも退職の説明をし、ダメージが最小限になるよう他の職員で対応を心掛けている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設との協同の年間教育訓練予定にグループホーム独自の勉強会も取り入れ計画的な学びの機会を確保している。勉強会は、職員の意欲や要望を取り入れ業務に支障がないよう出来る限り調整し職員が参加できるよう工夫している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ会やグループホーム連絡協議会に参加し、他のホームとの交流を深めている。管理者のみでなく、職員間での交流の必要性は理解できており、管理者会でも話題には出ているが、実現には至っていない。他の施設見学訪問の機会もある。		管理者だけでなく、職員間でも勉強会や見学等を通して行なっているケアの振り返りができ、ケアの向上に取り組む機会となる事が考えられる。交流の機会を持たれることが望まれる。


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前には家族のみでなく、本人とも面談し、出来る限り本人が納得した上で利用ができるよう支援している。見学や相談について、時間に関係なく受け入れるよう対応している。日頃より、併設のデイサービスや老人保健施設利用者との交流のあり、馴染みながらのサービス利用を常に意識している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はホームの役割を理解しており、入居者と共に作業を行う際、一方的な関係になっていないか職員同士がお互いに声かけをし、注意している姿勢がうかがえる。一緒に生活する中で、不安や喜びを共に感じ、そばに寄り添う関係となれるよう心掛けている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のかかわりの中で利用者の意向を把握し、個別カルテにそのままの本人の言葉で記入し職員間で共有している。面会が少ない家族などには、機会を作り意向を聞くようにしている。</p>		<p>本人や家族の意向をより把握するために、センター方式の導入を検討中である。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の変更時には家族にも説明を行い、意見ももらっている。個別カルテに状態や気付きを記載し、計画立案時に活かし、本人本意の計画になるよう配慮している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月の利用者の生活状態や身体状況を話し合い、カルテにまとめている。評価期間が終了時や、計画変更が必要時にはカンファレンスを開催し話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の意向に沿って受診介助、入院中の面会や洗濯など柔軟に対応している。病院への面会時には、病院スタッフと情報交換を行い、早期退院の支援も行なっている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望にあわせなじみの関係の主治医に受診できるよう配慮している。家族が受診に付き添った場合など情報提供票にて、連携がスムーズになるよう配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に施設の重症化した場合の対応などは説明し同意は得ている。終末期のケアは行っていないが、家族の意向を聞きながら安心してサービスが受けられるよう、状態に合わせ、家族・かかりつけ医と話し合い、相談する機会を持っている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>機会ある毎に、管理者が中心となって個人情報や守秘義務・プライバシーの確保について話をしている。排泄パターンを把握し、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>施設の大まかな日課はあるが、無理のないよう自分のペースで生活できるよう配慮している。ピースのより分けや大正琴・花の水遣り・昼寝など思い思いの時間を過している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>畑で収穫した季節の野菜を利用して調理している。下ごしらえから片付けまで一連の流れを利用者と一緒になって行っている。利用者からメニューの意見が出にくいいため、料理本や広告などを利用して聞いたり、残量から好みを判断して反映させている。職員と利用者が同じテーブルに座り、会話を楽しみながら楽しく食事が出来ている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に毎日実施されており、本人の希望を聞きながら対応している。体調の変動や外出・行事などで実施できない場合は、シャワー浴や清拭・足浴にて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日帰りの遠出や夜間の外出も企画し、より家庭の環境に近づけた外出場面も設けている。生活歴を活かし力が発揮できそうな場面作りを行なって、能力が発揮出来るよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の「出かけたい」という言葉を大切にしており、買い物・散歩・ドライブ以外にも、弁当持参で日常的に外出している。開放したベランダでおやつを食べる事も習慣化されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、安全確保のために玄関はオートロックとなっており施錠している。居室の窓やダイルームからベランダへのドアの鍵は開放されており、希望すれば外出も出来るように取り組んでいる。併設の老人保健施設とのドアの開放も検討したが感染症発症時の弊害もあり、難しい。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成してある。消防の立会いの基に、併設の老人保健施設と合同にて、年2回の避難訓練を行っている。マットレス搬送や緊急連絡網を利用し、利用者も参加して行なった。職員全員が応急手当が出来るよう勉強をしていく必要があると考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは併設の施設の管理栄養士に相談、月1回の体重測定もしており食事量も大まかに把握している。食事時以外にも水分補給を意識しており、水分量は大まかに把握している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームのテーブルの配置を工夫し、利用者同士が会話ができ刺激があるよう半円形に配置するなど工夫している。入り口やトイレ付近にも椅子を配置し、利用者が思い思いの場所で過せる工夫がなされている。食事の臭いや調理をする音などもデイルームから感じ取れ、五感への刺激になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは共用のものであるが家具やテレビなど家で使い慣れたものを持ち込まれたり、写真を飾るなど安心して生活が出来る空間作りを心掛けている。		

 は、重点項目。